

## 令和7年度 第二回 ネイパル足寄運営協議会 議事録

### 1. 開催概要

日時 令和8年3月23日(月)16:00~17:25

場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄

出席者 (敬称略) 沼田 正俊、石橋 栄、大鳥居 仁、阿部 昌己、沼田 信二、小林 雅子、  
安藤 達郎 (代理者)

事務局 局長 三間 順一 局次長 西尾 仁 局員 田中 絵美、佐藤 奨弥

オブザーバー 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課 社会教育主幹 田尾 和祐

### 2. 運営状況報告および課題分析

三間局長より、令和7年度の利用実績および満足度調査の結果が報告された。

#### 2-1. 利用状況の動向と課題

- ・ 施設の老朽化に加え、少子化の影響により、小中学校の団体数は増加傾向にあるものの、1団体あたりの利用者数は減少している。
- ・ 学校行事の見直しが影響している。
- ・ 一方で、大学や少年団等の社会教育団体の利用は伸びており、ストロングポイントとなっている。
- ・ 目標値「3万人」に対し現状は厳しいが、冬期利用の平準化や質の向上を並行して目指す方針である。

#### 2-2. 利用者満足度調査の結果

- ・ 「建物・設備の清潔さや利便性」は98.5%と高い評価(6施設中1位)を得ているが、「食事について」は最下位となり、メニュー改善が急務となっている。
- ・ 評価の高い「職員の対応について」も、学校側との細やかな連携・対話を通じ、さらなる評価向上を目指す。

### 3. 主要協議内容と委員からの提言

#### 3-1. 教育実習拠点としての活用と地域PR

- ・ 教員不足が深刻な中、武蔵野大学との「草の根教育実習」を継続しており、初年度として大きな成果を上げた。
- ・ 足寄高校での教員募集に対しても、「足寄に行きたい」という声があり、地域の惹きつける力をPRに活かすべきである。
- ・ 十勝管内および日高管内の教育委員会などへの営業活動を継続し、新たな関係構築を図る。

#### 3-2. 博物館等との専門的なプログラム連携

- ・ 足寄動物化石博物館との連携を強化し、川での発掘体験や地層学習など、他施設にはない専門的な「足寄パッケージ」の構築を進める。
- ・ 安全管理面はネイパルがサポートし、専門知識の提供を博物館が担うことで相乗効果を生み出す。

### 3-3. 効果的な広報活動と安全管理

- ・ 情報の確実な周知のため、SNSに加え「広報あしよろ」への掲載や、手元に残る回覧板等のアナログ媒体の効果を再検証する。
- ・ 安全面では、冬期の施設へ続く坂道の路面凍結や、自転車利用時のヘルメット着用、危険箇所マップの作成による注意喚起を強化する。

### 3-4. 施設環境の改善

- ・ 近年の猛暑対策として、宿泊室および事務局へのエアコン設置の要望が強く出された。
- ・ 予算面での課題はあるが、他施設の動向も踏まえつつ、設置に向けた働きかけを継続する。

### 3-5. 新たな客層の開拓

- ・ Jリーグのキャンプ誘致など、オフシーズン（6～7月）における足寄の涼しさを活かしたスポーツ合宿の可能性を検討する。
- ・ 民間企業（指定管理者）としての強みを活かし、企業の福利厚生や研修ニーズに対応した「民間向け軸」の確立を目指す。

## 4. 今後の重点方針

1. **地元資源の最大活用**：博物館等との連携による、専門的かつ質の高い体験プログラムの提供。
2. **冬期利用の促進**：冬特化型パッケージの開発と、積極的な営業活動による利用の平準化。
3. **収益源の多様化**：企業連携や一般利用客のニーズに応える事業展開。
4. **安全・安心な環境整備**：暑さ対策（エアコン検討）および冬季の安全管理の徹底。

---

### 沼田委員長 結び：

「委員の皆様からいただいた多くの視点を参考に、来年度に向けた具体的な形を作り、数字と満足度の両面で成果を残せるよう取り組んでいく」として閉会した。